

取り組んだこと

- 1) 現在の日本語教室の改革について
- 2) 新しい日本語教室の立ち上げについて
- 3) 外国人雇用企業への日本語出張講座
- 4) 留学生に対する生活支援

【内容】

- 1) 現在の日本語教室の改革について

■現在の問題点

- ・文法積み上げ式であること。
- ・年間通してのカリキュラムであり、途中参加が難しい、仕事や家庭の事情で継続して学習することが難しい。＝学習者の継続に問題がある
- ・ボランティアで教えるには授業準備などの負担が大きいなど

■コーディネーターとしての提案

「教科書の変更」「カリキュラムの変更」「ボランティアの負担について」ボランティア講師・国際交流協会職員とミーティングを行った。

↓

- ・教科書の変更について→現状のままでよい
- ・カリキュラムの変更 →必要なし
- ・これまで長年このスタイルでしてきたことなので、新しい教科書では何をどう教えたら良かわからない。
- ・今後 JLPT を受験するなど、学習者の将来のことを考えると文法を学ぶことも重要である。→ 現状の日本語教室を変えることは難しい

文法クラスと会話クラスの選択制にする（学習者の選択肢を広げる）

■現在の日本語教室で今できること

クラス間の交流イベントの開催。→新年にこれまでクラス内で行っていた日本文化体験（書道・福笑い・カルタ・けん玉・お手玉・フルーツバスケットなど）を全体のイベントとして開催した。

2) 新しい日本語教室の立ち上げ 「にほんごではなそう」

1) の日本語教室の問題点である、通年固定文法積み上げ式ではない別の日本語教室を開催することにした。

2月5日と2月23日に学習者発信型の日本語教室の開催。

現在チラシを作成し参加者を募っている。

教科書「私らしく暮らすための日本語ワークブック」を使う予定であるが、学習者が主体となり自分で調べ、困っていることを話し合うクラス。

テーマ1回目：「病院へ行く」「日用品・薬を買う」

2回目：「防災に備える」「社会のルール・マナーを知る」

当初は支援者も募集する予定であったが、まずは私がやってみて今後の問

題点や課題を抽出し、次年度以降は今回の活動で出た意見をもとにテーマの抽出、支援者を中心とした教室にしていく。



3) 外国人雇用企業への日本語出張講座

日本語教室へ来ることが難しい外国人を雇用している企業へ出向いて日本語出張講座を行った。(不定期)

技能実習生と特定技能が混在している会社であったためレベル調整が難しかった。会社で使う日本語を当初は勉強していたが、その後日本語能力試験対策に変更した。

4) 留学生への生活支援

- ・留学生へ金銭管理の重要性や納税・年金についての説明を行った
- ・来年度入学予定の留学生への来日時に必要な日本語の文字導入（住所、電話番号、名前などの練習）
- ・国際交流協会主催のイベントへの参加招待

反省と課題

- ・新しい日本語教室への動き出しが遅く支援者の育成ができなかった。
- ・学習者への周知が遅れた。ニーズの確認が遅れた。
- ・既存のクラスでは、講師間の連携ができておらず新規ボランティアのフォロー不足を痛感した。新規でボランティアを始めた3名のうち2名がやめることになった。
- ・外国人雇用企業の方への日本語学習の問題などを共有できなかった。
- ・就労者が求める日本語学習と会社のニーズとのずれがあった。

日本語教育コーディネーターとして今後取り組みたいこと

今後の日本語教室のあり方について

新しい日本語教室

- ・ サードプレイスとしての存在
- ・ 支援者の育成
- ・ 学習者が話す場
- ・ 地域外国人の周知
- ・ 定期開催（月1回）

既存の日本語教室

- ・ 新しいボランティアへの日本語文法の教え方講座（自主勉強会）
- ・ 授業に支障のない範囲での文化イベントの企画
- ・ クラス間の交流を促進
- ・ カリキュラムや教科書の変更をより具体的に提案していく

今後の目標（今年度できなかったこと）

- ・ 外国人雇用企業への「やさしい日本語」講座の開催
- ・ 地域のイベントへの参加など地域との連携
- ・ 年少者への学習支援の場づくり

以上